

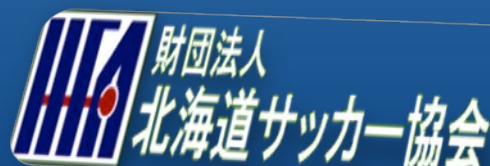
北海道トレセンキャンプ U-16 国体強化合宿／日韓ユース大会

2011年8月9日～14日

【報告者】 大西真司

場 所 札幌東雁来公園グランド・SSAP

宿泊場所 北海道トレーニングセンターハウス(夢きたれ)



スケジュール

- 9日PM トレーニング
「アタッキングエリアでのくずしとフィニッシュ」
- 10日AM トレーニング「守備におけるブロックの形成」
PM トレーニング「セットプレーの確認」
U-22日本代表 対 U-22エジプト代表、
日本代表 対 韓国代表 2試合観戦
- 11日AM ミーティング
PM トレーニング「攻撃におけるコンビネーション」
日韓ユース大会 レセプション参加
- 12日 11:00 日韓ユース大会 対 U-16マレーシア代表
- 13日 11:00 日韓ユース大会 対 U-16兵庫県選抜
- 14日 13:30 日韓ユース大会 対 U-16韓国ソウル特別市選抜



「北海道」の 名を胸に闘う

1. キャンプの概要

今回は国体本大会に向けたチーム作りを視野に入れ、7月に行われた国体選考会での選手を最終選考の場として個人個人の力や、ポジションにおけるコンビネーション等を見極める目的と、日韓ユース大会における3試合の実践体験を積むのを目的とした。しかし、今回も18名の選手を招集する予定でしたがケガによりプレーできない(不参加も1名)選手

が2名いたため16名の体制であったり、キャンプ前までの所属チームの合宿等の延長からコンディションがベストの状態ではない選手がさらに数名いましたので前回までのキャンプ同様にチームとしては厳しいものでした。



北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！

2. 日韓ユース大会の試合内容から

1 試合目のU-16マレーシア代表との対戦

戦は、前半5-0、後半0-0、合計5-0で勝利。対戦前のマレーシア代表というチームには予備知識が何もないため、対戦チームを考えた戦いではなく自チームの目標を確認することが中心となりました。今回招集した選手の中には初参加の者も5名いましたので、それらの選手がどの程度国体チームの一員として力を発揮できるのかを確認したいの言うまでもないのですが、日韓ユース大会の初戦ということもあり、勝利を手にするのもチームにとっては大きな意味を持っているのも事実でした。前半のスタートメンバーは現段階でベストとなることを意識して決定したこともありますが得点を重ねることができました。しかし、1人で4点をあげた選手の出現により全体がチームとして機能したかと言うと若干疑問が残るかもしれません。ただ、結果として5点差が着いたので後半は残りメンバーの4名を最初から交代もできましたので、個人の力を見極める上では良かったと思います。後半の得点無しで終わったのが物語っているように、4名の選手とスタートの選手の間には結構差があることも感じました。



2 試合目のU-16兵庫県選抜との対戦

は、前半1-1、後半2-0、合計3-1で勝利。初日のU-16韓国ソウル特別市選抜に9-0の勝利を収めている兵庫選抜であったので、予想としてはこの対戦が決勝的な意味合いが強いのかなと感じ、初日の兵庫の試合をスカウティングした内容をもとにミーティングで戦い方を確認して試合にのぞみました。前半から一番相手の攻撃の中心となる選手を止め切れずに若干守備の不安を抱えながらでしたがセットプレー絡みから

早々に先取点を奪われました。しかし、前半の中間あたりから徐々に主導権を握りはじめ、相手のミスを逃さず同点のシュートを決めました。このままたみかければさらに北海道のペースとなるかと思い、選手交代を行いました。決定的な得点チャンスもありましたが、前半は1-1のまま終了しました。後半は途中で相手GKが反則で退場となり数的優位となりましたが、逆に北海道は攻撃のリズムを失い守備を固めてカウンター狙いに徹する兵庫選抜の方がチャンスを迎える場面が出てきました。しかし、何とか失点をせ



参加選手

コンサドーレ札幌ユース:6名 札幌ブロック:5名
道南ブロック:2名 道東ブロック:2名
道北ブロック:1名 合計16名



ずに粘り強く戦うことができ徐々にペースをつかみはじめ待望の勝ち越し点を奪いました。1点リードした中では精神的な安定をもたらし、さらにはコーナーキックからのだめ押しとも言えるヘディングシュートを決め、3-1で終わることができました。相手の兵庫選抜は、ヴィッセル神戸や滝川二高などの選手を中心に個の部分での比較では北海道の選手より優れた選手が多いように見られる中で、途中退場者が出たことも影響は大きかったと思いますが北海道の選手も成長の部分を感じさせる試合であったと思います。

最終日の3試合目はU-16韓国ソウル特別市選抜との対戦でしたが、午前中の試合で兵庫選抜がマレーシア代表に前半から4失点、後半2点を返したが負けて4位となる結果を観て、何となく嫌な雰囲気漂う中、さらに大会要項の順位決定方法に明記されているように勝敗数が同様の場合は当該チームの対戦成績が最優先されるという規定で、U-16韓国ソウル特別市選抜は最終戦で北海道に勝てば優勝を手にすることができるという意気込みが感じられるものでした。前半のキックオフ開始後から、相手チームの守備体型が予想していなかった6人DFという布陣に、明らかに北海道の選手は戸惑いを隠せずに戦っていたように思います。完璧に守備的に闘う相手に対して少ない攻

撃人数しか掛けられず、ボールを失う場面が続く、さらにはそこからスピーディーなカウンター攻撃をしかけられ北海道の守備ブロックが形成される前にことごとくフィニッシュまで持ち込まれてしまいました。しかも、少ない攻撃機会にスピードと正確性がうまく絡み前半で4失点となすすべなくハーフタイムを迎えました。最終戦を甘くみたわけではなかったのですが、スタートメンバーで起用した選手は今回の合宿を通じて本大会のメンバーとしての見極めを考えている選手でしたが、力不足が浮き彫りになってしまいミスを重ねてしまったように思います。後半は交代できる範囲のすべての人数を代え反撃に出ようとしたところ、ケガによる途中離脱があり1人少ないフィールドプレイヤーの状態ではピッチ上に立つ選手同士の力では解決する糸口さえ見つからずに混乱するばかりでした。後半は、何とか個の力で1点を返すもさらに2失点、終了時は1-6での敗戦となりました。大会規定により3日間の日程を2勝1敗、得点9、失点7の準優勝で終わりました。



3.成果と課題

成果としては、U-15の冬季交流会から始まり今回の合宿ですでに5回目を重ねています。継続的に合宿に参加している選手には複数のポジションを経験させながら試合をこなしてきたため、けが人等が出た時の使い回しが可能になったことが挙げられます。しかし、逆にいえば合宿毎に何名か新しくメンバーに加えた選手は、本人に出場機会の確保やプレーの幅を広げるチャンスという説明をしたにもかかわらず、チャレンジする姿勢が見られませんでした。

課題としては、U-16という年代の特徴かもしれないかもしれませんが、自分たちのペースで事が運ばれている時は表情も明るく声も出てアグレッシブにプレーはできるのですが、ひとたびうまくいかない時は個人プレーに頼りミスを重ねてしまったり味方のミスには批判的な態度や言葉を発したりしてしまいます。端的に表現すると、まだまだ精神的な幼さが目立つように思います。

また、コンディションという点からみると突発的なケガも含めU-16年代ですでに身体のあちこちにいろいろな痛みやゆがみなどを抱えながらプレーしている姿が多すぎるように感じます。各

合宿で招集した選手がすべてベストコンディションでフルにプレーできるという状況は残念ながら1度もありませんでした。医科学委員会のサポートでトレーナーの方を派遣していただいたりして合宿を進めてきましたが、非常に助かった反面この年代の選手たちの将来はどのように進んでいくのかの不安も無いわけではありません。

U-12年代からトレセン活動でサッカーを通じた様々な育成をしてきたと思いますが、まだまだ日頃の所属しているチームの指導者との連携をとりながら、将来の代表選手を輩出するために何が必要なかを交流していかなければならないように思います。

4.山口国体本大会に向けて

今回の合宿と日韓ユ

ースの対応から本大会のメンバー16名の選考をし、大会本部への提出を予定しています。

9月10日・11日に通いで短期合宿を計画しています。本大会のメンバーでチームとしての確認等をできればと思います。

9月28日に直前合宿に出発し、福岡で地元チームとの練習ゲームで調整し山口県へ移動、10月2日からの本大会に臨む予定です。

なお、組み合わせ抽選はJFAにて9月7日の予定です。

